

## 世界の気候と日本の気候

富山県 公立中学校教諭

### 1 はじめに

世界と比べてみた日本という項目は、世界的視野からわが国の国土の特色を追究する活動と、日本全体の視野から国内の地域差を大まかにとらえる活動を通して、国土の地理的認識を深めるとともに、地域間を比較し関連づけて地域的特色を追究する調べ方や学び方を身につけさせることをおもなねらいとしている。

そのためには、社会的事象の位置や広がり、なぜその事象は、その場所でそのようにみられるのかを明らかにする必要がある。

これを本題材に当てはめてみると、まず日本は温帯の国であり、世界全体では、熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯の五つの気候帯があり、どのように広がっているのか。その気候の特徴は何かということをとらえさせる。また、その中で日本は季節風の影響をうけて四季の変化がはっきりしていることや台風や梅雨などの影響で降水量が多いが、世界では同じ温帯の国でも、年中温帯で四季の変化のはっきりしない国や降水量が季節によって偏っている国など地域によって違いがあるということに気づかせる必要がある。

これらのことをそれぞれの気候帯の地域へ世界旅行をする場合、逆に日本と同じ温帯に属するロンドンやローマの人が日本に来日する場合、どのような服装や持ち物が必要なのかを、帝国書院『中学生の地理(最新版)』(以下、教科書)の風景写真や同社『中学校社会科地図(最新版)』(以下、地図帳)の気温と降水量のグラフを利用することを通して考えさせようとした。

#### 〈指導略案〉

生徒の活動	教師の指導・支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には、五つの気候帯があることを大観する。</li> </ul> 〈第1時の課題〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳p.7～8の分布図を利用する。</li> </ul>
世界旅行に行くときにどんな服装や持ち物が必要か考えてみよう。	
〈予想をたてる〉	

- 5班編制にし、それぞれの班で一つの気候帯を担当し、予想する。
- 〈予想の検証〉
- 班ごとに写真やグラフから実際は、どんな服装や持ち物が必要なのか考える。

#### 〈検証を終えて〉

- 写真やグラフから検証してみ、予想との相違点を発表する。
- 他の班の発表や追究した結果を通して感想をワークシートに記入する。

#### 〈第2時の課題〉

ロンドンやローマの人が、日本に旅行する場合、どのような服装や持ち物が必要なのか教えてあげよう。

#### 〈予想をたてる〉

#### 〈予想の検証〉

- グラフの比較を行い、違いを読み取り、発表する。

#### 〈検証を終えて〉

- メールで送付する文章を作成する。

- 自分たちが選んだ都市がどんな気候帯に属するか地図帳を利用して確認する。
- 気候帯のイメージから自由に予想させる。
- 教科書の景観写真や生活のようす、地図帳の気温と降水量のグラフを読み取り、服装や必要な持ち物を考えさせる。
- 気候帯の特徴がとらえきれない班に対しては、適宜助言する。
- 資料を多面的・多角的に見るように指導する。
- 自分も持っている気候帯のイメージと実際は違う点があることをつかませる。

- 第1時と同じようにワークシートに記入する。

- 東京の気候は、夏と冬の気温の差が大きく、降水量がかなり多いことから考えさせる。

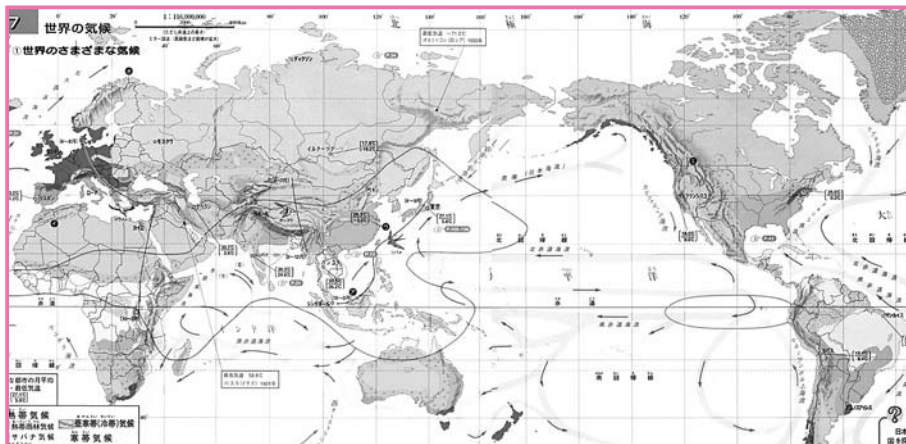
### 2 世界のさまざまな気候帯

ここでは、最初に地図帳p.7～8の①世界の気候の図から世界には、熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯の五つの気候帯が広がっていることを示す。その後、五つの気候帯の特色をとらえさせるため次のような課題を設定し、多面的・多角的に特色をとらえさせようとした。

世界旅行に行く場合、どのような服装や持ち物が必要か考えてみよう。

#### 〈予想〉

気候帯	服装・持ち物(理由)
熱帯	ランニングや半袖のTシャツ、ハーフパンツや短パン系のもの。タオル、サンダル、帽子、サングラス、日焼け止め、うちわ(赤道付近にあり、暑いことが予想されるので)
乾燥帯	傘は不必要(砂漠が多いので)、サングラス、



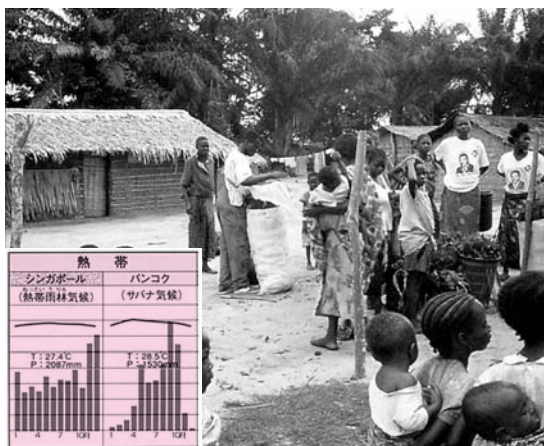
『帝国書院中学校社会科地図(最新版)』p.7~8

	帽子、ペットボトル(日差しから身を守るため)
温帯	・季節にあわせた、普段着ているものや使用しているもの。(四季がある、日本と気候が似ている)
冷帯	・コート、マフラー、カイロ、手袋、長靴、ニット帽、厚めの靴下、耳あて(寒さが厳しいから)
寒帯	・コート、マフラー、手袋、ニット帽、ブーツ、毛布、セーター、カイロ、耳あて(寒いから)

〈予想の検証〉

- ◇1. 教科書p.138~139の各気候帯の景観写真やp.140~141の生活のようすを表した写真から考える。
- ◇2. 地図帳p.7~8に掲載されている世界各地の気温と降水量のグラフから考える。

熱帯



- ◇1. 景観写真や生活のようすから
  - ・やはり、着る服は、半袖の涼しそうな服装をしている。
  - ・ゆったりとした風通しのよい服を着ている。
  - ・密生の生い茂るようすから雨が多く降るのかも

しれない。傘が必要かも。

◇2. 気温と降水量のグラフから

- ・気温は、1年中20℃~30℃の間で推移している。やはり、暑そうなので半袖の服だけでよさそう。
- ・降水量は、シンガポールでは平均して多いから、傘は必需品

と思われるが、ブラザビルでは、ほとんど降らない時期がある。この時期に行けば、傘はいらないのではないか。

乾燥帯



- ◇1. 景観写真や生活のようすから
  - ・白色の服装をしているのは、日差しが強いからだろうか。そうすると、黒系の服はひかえた方がいいかもしれない。
  - ・頭には、布を巻いている。日差しが強いからだろうか。やはり帽子が必要だ。
  - ・木が少ないからか、土のレンガで家を造っている。身体が乾燥しないように水の入ったペットボトルもいる。
- ◇2. 気温と降水量のグラフから
  - ・気温は、暑いというイメージがあるけど、冬は、10℃ちょっとでそれほどでもない。冬は、長袖もいるのだろう。
  - ・ラホールでは、夏の降水量は、熱帯並みにあるので傘がいると思う。
  - ・カイロは、雨がほとんど降らないので、水筒が必要だ。

## 温帯

### ◇1. 景観写真や生活のようすから

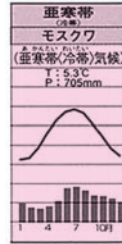
- ・日本が温帯だから、気候はよく似ていると思っていたけど、スペインなどは、白い石造りの家が見られ、日差しが強そう。やはり、帽子がいろいろに思われる。服装は、半袖でよさそう。乾燥帯の気候の写真に少し似ている。
- ・イギリスでは、ゴルファーが長袖と半袖を着ている。ということは、長袖、半袖両方がいるのだろうか。



冬支度が必要だと思われる。

### ◇2. 気温と降水量のグラフから

- ・降水量は、それほどではないので傘は必要ないようである。
- ・冷帯と言っても、夏の気温が20℃以上ある。夏に行けば、半袖が必要である。



## 寒帯

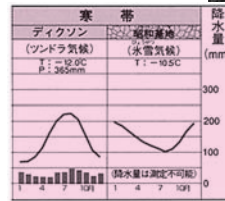
### ◇1. 景観写真や生活のようすから

- ・寒すぎて食物も採れないように見える。カップ麺などのインスタント食品が必要。
- ・しっかりした防寒具が必要。



### ◇2. 気温と降水量のグラフから

- ・ローマでは、夏に気温が熱帯並みなのかかわらず、降水量は乾燥帯並みとなっている。夏に行く場合は、帽子、半袖、水筒は忘れないようにしたい。でも傘はいらないかもしれない。冬でも、気温は10℃ちょっとで過ごしやすい。
- ・ブエノスアイレスでは、日本とよく似ている。持ち物は普段着ているものや使用しているものを持参すればよい。
- ・ロンドンでは、気温は、夏でも20℃を超さず、過ごしやすいと考えられる。日本の春の感覚で持ち物を選べばよい。冬は、気温が0℃近くになるので、寒いことを意識してコートなどは、忘れないようにしたい。降水量は、年中少ないので、傘は必要ないと思われる。



### ◇2. 気温と降水量のグラフから

- ・寒帯というと、想像を絶する寒さを想像していたが、夏には気温が10℃近くになっており、日本の春や秋を想像した荷物を持っていけばよいと思う。降水量もほとんどないので傘はいらない。冬には行きたくないけど凍えないような防寒着は必需品。

〈検証を終えて〉

気候帯	感想
熱帯	・熱帯は、暑いと思っていたが、シンガポールでは日本の夏とそんな大きく変わらない気候なんだとわかった。予想通り、自分たちが夏に使用する物や服を持って行けばよい。

## 冷帯

### ◇1. 景観写真や生活のようすから

- ・樹木が、針葉樹林であり、雪が積もっている。



乾燥帯	・乾燥帯では、砂漠のイメージが強かったが、冬などは、気温も降水量も日本とよく似ていることがわかった。夏に行くときは、予想通り、涼しい格好やうちわを持って行けばいいけど、冬に行くときは、セーターやカイロなども必要なのかな。
温帯	・温帯では、日本と同じような気候だと思っていたが、同じ温帯でも服装や持ち物が大きく違っていることがわかり、なぜ同じ温帯でこのような違いが出てくるのか調べてみたい。
冷帯	・冷帯では、夏に気温が20℃になり、防寒具は必要ではなくむしろ過ごしやすかった。夏に行く場合は、日本の春や秋の服装をイメージすればよいことがわかった。
寒帯	・予想通り、厳しい気候だったが、一年中ずっと寒いのではなく、夏は気温が10℃近くになり、夏に行けば日本の冬に必要な物をそろえればよいということがわかった。

生徒は、予想の段階から気候帯に対して大まかなイメージをもっていた。熱帯は暑さ、乾燥帯は砂漠、温帯は日本と同じ、冷帯は寒さ、寒帯も寒さである。冷帯と寒帯の違いも把握しておらず、服装や持ち物は同じような物が並んだ。しかし、生徒たちがもっている気候帯についての従来のイメージは、地図帳などに記載されている気温と降水量のグラフをしっかりと読み取ることで、熱帯でも傘が必要だったり、乾燥帯でも冬は気温が10℃程度だったり気温と降水量のグラフからも気候帯の特徴が読み取れ、持ち物や服装を予想でき、従来のイメージを覆された生徒も多かった。今回は、教科書の写真や地図帳のグラフからのみ考察させたが、旅行会社のパンフレットなどさまざまな資料から追究するともっと深まりがでるので、さらに追究活動を展開したい生徒にはそれらを利用して追究させたい。

### 3 世界の中の日本の気候

前時の学習で、日本は、世界の中では温帯に属するが、同じ温帯に属する国でも降水量が多い国や乾燥している国があることがわかった。本時は、このことからそういう国の人たちが、日本に旅行するときどんな服装や持ち物が必要なのかを考えることで日本の気候の特色をつかもうとするものである。そこで、次のような課題を設定した。

ロンドンやローマの人が、日本に旅行する場合、どのような服装や持ち物が必要なのかメールで教えてあげよう。

〈気温と降水量のグラフの特徴の比較から〉

◇ロンドンの人へ

#### ※夏に来日する場合

ロンドンは、気温が低く、雨も少ないので同じ温帯でもずいぶんその違いに驚くと思います。

東京に来る場合は、気温が高く、降水量も多いので半袖を用意し、傘も必需品です。気温が高く、降水量が多いことから湿気が高いと考えられるのでタオルなども忘れずにしてください。

#### ※冬に来日する場合

気温はロンドンと比較してやや高いけど、降水量は大きく変わりません。そういうことから乾燥しているのでコンタクトをしている人は、目薬を忘れずにしてください。

◇ローマの人へ

#### ※夏に来日する場合

ローマは、気温が高く、降水量が少ないので乾燥しているようですが、東京は湿気が高いのでロンドンと同様タオルや傘が必要です。同じように暑いと考えられるので服装はローマと同じでよいと思います。

#### ※冬に来日する場合

ローマは、気温が東京と比較してやや高いようですね。東京は気温が低いので風邪を引かないように暖かい服装をしてください。降水量は、あまり変わらないと思います。

## 4 終わりに

世界の気候を写真や気候と降水量のグラフから大観することで、生徒はある程度五つの気候帯の特色について理解できた。自らのイメージ通りだった部分も多いが、意外と日本の気候と共通点があることに驚いたり、日本と同じ温帯の国に属していながら、なぜこんなに違うのか疑問を感じたりした生徒もいる。また、外国の人が日本に来る場合、東京の気温と降水量のグラフだけで日本の気候を判断し伝えてよいのか。自分たちが住んでいる富山県に来る場合は、全然違うのではないかという疑問をもつ生徒もいた。そういう疑問を取り上げ、地図帳巻末の資料を利用して気温と降水量のグラフを書かせたり、他の地域のグラフを比較したりする作業を通して、日本の気候の特色の追究へとつなげていきたい。